

# 利休梅

染谷秀雄

玄関脇の利休梅が咲いた。「屋根」の例会が府中大國魂神社で行われて吟行をしていた際、境内の苗木市で満開に咲くその白さを見たとき余りの綺麗さに吟行中にも拘わらずつい衝動的に購ってしまった。会場に着くと「何という花？」だとか、「どこで買ったの」とか、「こんなもの持ってよく吟行した」とかいろいろと言われた。案の定、夏風先生からは衝動買いだと笑われてしまった。しかしその通りだから仕方なく甘んじてその言葉を受け入れた。さて、庭に植えた翌年、春になり花が咲くのを待ったが、葉は元気だが花芽はつかなかった。咲いている苗木を購ってきたのに咲かないのは何故なのか、日当たりも土も問題ないと思っていたが仕方なく来年を待つことにした。お隣にも同じものがあつたが、いつも真っ白い花を沢山咲かせ、道端に花びらを散らせた。

我が家の利休梅は翌年もその翌年も一向に咲く気配はなく年だけを重ね、丈だけは伸び遂に自分の背丈を越えはじめた。毎年期待しては裏切られ、諦めていた矢先、今年はじめて蕾を持った、嬉しかった。購つたのはいつだったかと苗札の裏を見たところ2014・4・13と鉛筆の字が薄れてはいたが例会の日が読み取れた。八年前だ。急に当時の情景が甦った。みんな若かった。夏風先生も元気だった。遂に三月三十日、蕾の一つが純白の花を咲かせた。八年間ずっと我慢してこの地でようやく花開いた。そのうち十日もすると頂の枝まで一気に花を咲かせた。